

若年者の喫煙に注意を

～10代での喫煙開始で多発がんが発生～

病気になってはじめて健康の有り難さが分かる。私自身も、約15年前に大腸がんの手術を受けた。手術によって大腸が30cmほど短くなった。腸が短くなっただけで、トイレに通う回数が増す。旅行にしる、種々の会議にしる、毎回トイレの位置を確認しておく生活になった。加えて、病気の再発を危惧せざるを得ない。失ってはじめて気づく健康の有難さである。

今年の夏の高校野球も終わった。スポーツの醍醐味は、試合の全体を視野に入れて、流れを読み、目の前の現実に対する駆け引きにある。ましてや囲碁や将棋などは10手、20手と先の先を読んでの物語が展開される。

タバコの影響は20年、30年後に現れるため、将来を見据えての健康管理はむづかしい。「ニコチン依存症」としての病識に欠ける。「喫煙」が病気であることを意識しないがために、将来に悔いを残す。「後悔先にたたず」。先人の貴重な教えである。

タバコと関連した呼吸器の病気では、肺気腫があり、毎日酸素を携帯しての生活になる。肺炎を併発しやすい。職業病としてのアスベスト関連の病気は、喫煙習慣が加わり悪性胸膜中皮腫や肺がんが発生する。呼吸器以外でも、喉頭・咽頭がん、食道がん、胃がん、すい臓がん、腎臓がん、膀胱がん、子宮頸がん等の発生リスクが高まる。

喫煙は動脈硬化を促進する。生活習慣病としての高血圧症、糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の発症リスクを高め、メタボリックシンドロームと深く関連する。胃潰瘍、骨粗しょう症も例外ではない。

とりわけ若年者には注意を促したい。女性では美容上の問題だけではなく、妊娠合併症、不妊、低出生体重児、乳幼児突然死症候群などとの関連がある。

昨年11月、米国からの衝撃的な研究報告があった。多くの肺がん、膀胱がん、腎がん、頭頸部がんの患者さんの治療後の長期の追跡の結果である。1日に20本以上のタバコを吸っていた人については、一つの「がん」が治っても、タバコを吸わない人に比べると、さらに新たな「が

ん」が発生する確率は、吸わない人の3～5倍にもなるとの結果であった。

このことは私どもの肺がん診療のデータでも確認していた。「多発がん」「重複がん」の患者さんの共通点は、10歳代でタバコを吸い始めたことにあった。中学生、高校生に告げたい。何気なく吸うそのタバコが、社会人になってからの「がん」の発生を招く。喫煙は、「喫煙開始年齢」も重要な意味をもつ。加えて、副流煙による受動喫煙は、他人の健康をも害していることを忘れてはならない。



病気になるって初めて健康のありがたさが分かる。私自身も、約15年前に大腸がんの手術を受けた。手術によって大腸が30センチほど短くなった。腸が短くなっただけでトイレに通う回数が増す。旅行にしろ、種々の会議にしろ、毎回トイレの位置を確認しておく生活になった。加えて、病気の再発を危惧せざるを得ない。

「喫煙」が病気であることを意識しないがために、将来に悔いを残す。たばこに関連した呼吸器の病気では肺気腫があり、毎日酸素を携帯しての生活になる。職業病としてのアスベスト関連の病気は、喫煙習慣が加わり悪性胸膜中皮腫や肺がんが発生する。呼吸器以外でも喉頭・咽頭がん、食道がん、胃がん、すい臓がん、腎臓がん、膀胱がん、子宮頸

死症候群などとの関連がある。昨年11月、米国から衝撃的な研究報告があった。多くの肺がん、膀胱がん、腎がん、頭頸部がんの患者さんの治療後の長期の追跡の結果である。1日20本以上のたばこを吸っていた人については一つの「がん」が治っても、吸わない人に比べると、さらに新たな「がん」が発生する確率は、吸わない人の3〜5倍にもなるという結果であった。

論壇



石川 清司

10歳代の喫煙 がんの共通点

ことしの夏の高校野球も終わった。スポーツの醍醐味は試合の全体を視野に入れて、流れを読み、目の前の現実に対する駆け引きにある。囲碁や将棋などは10手、20手と先の先を読んでの物語が展開される。

たばこの影響は20年、30年後に現れるため将来を見据えての健康管理は難しい。「ニコチン依存症」としての病識に欠ける。

がん等の発生リスクが高まる。喫煙は動脈硬化を促進する。生活習慣病としての高血圧症、糖尿病、脳卒中、心筋梗塞の発症リスクを高めメタボリック症候群と深く関連する。胃潰瘍、骨粗しょう症も例外ではない。

とりわけ若年者には注意を促したい。女性では美容上の問題だけでなく、妊娠合併症、不妊、低出生体重児、乳幼児突然

このことは私どもの肺がん診療のデータでも確認していた。「多発がん」「重複がん」の患者さんの共通点は、10歳代でたばこを吸い始めたことにあった。中学生、高校生に告げたい。何げなく吸うそのたばこが、社会人になってからの「がん」の発生を招く。喫煙は「喫煙開始年齢」も重要な意味を持つ。加えて副流煙による受動喫煙は、他人の健康をも害していることを忘れてはならない。

(富野清市、県禁煙協議会会長、沖縄病院名誉院長、66歳)